

## カワサキ★U18 レポート

vol.3



川崎市では、市をもっと良くするために、子どもたちが中心になって話し合う「川崎市子ども会議」を開催しています。子ども会議では、1年間のテーマを決めて定例会議で話し合いを行っています。「カワサキ★U18」と題して、いろいろな子どもとの話し合い、さらには大人との話し合いを通してまとめた意見を、市長に伝える活動も行っています。今回は市長に子どもの意見の提出などを行った、3月のカワサキ★U18の様子を中心にご紹介します。

※11月までの活動の様子はvol.1、2に掲載しています。

12/7  
2/1

### 川崎市子ども会議 定例会議 「市長に伝える意見を考える」

11月17日に開催したカワサキ★U18で大人と話し合った内容を振り返り、「私たちの『子どもの権利』をもっと大切に！」について、市長に伝える子どもの意見を話し合いました。



2/15

### 川崎市子ども会議 定例会議 「来年度のテーマ候補を考える」

「子ども・若者の“声”募集箱」に届いた子どもの意見を参考にして、3月に市長と意見交換を行うカワサキ★U18の来年度テーマ候補を2つ考えました。



3/27

## カワサキ★U18 「子どもの意見を市長に提案・市長と意見交換」

### 1 「私たちの『子どもの権利』をもっと大切に！」について、市長へ子どもの意見を提案

7月・11月のカワサキ★U18や川崎市子ども会議定例会議で1年間検討してきた「私たちの『子どもの権利』をもっと大切に！」について、子ども会議メンバーが市長に意見を提案しました(次ページ参照)。

市長からは、「子どもからの声を大人がしっかり受け止め共有したい」、「安心の中で相談できる環境づくりをしていきたい」、「日常的にいつも生活の中で子どもの声が伝わっている状態を目指したい」などのコメントをいただきました。



## ■子どもから市長に提出した意見の内容

### ① 言葉だけではなく権利の「本質」を学ぶ学習にしたい

<理由>

7つの権利を知っていることは大切です。ただ、7つの権利の言葉を覚えることよりも、権利につながる場面や内容（本質）について学ぶことで、自分ごととして権利を考えられるのではないかと思います。

<例えば…>

- ロールプレイで学んだり普段から学んだりすることによっていつもの生活の中で子どもの権利を感じられるようにする。
- 権利学習の記録のような、自分の中に残るもの、ふり返られるものを作る。
- ゲームのように楽しく学べる、安心して発言できる雰囲気など、授業内容の工夫や環境づくりを大切にします。

### ② 「日常」の中で安心して会話ができる相談場所にしたい

<理由>

川崎市子どもの権利に関する条例には、安心して過ごせる場所や相談に関する権利があります。一方で、居場所で過ごしたい人や相談したい人は「人の目」をととても気にしていることがわかりました。その不安を解消するために「特別な場所にいる」「特別に相談している」という感じがしない、会話をしているような場所や相談機関になると、居場所で過ごすことや相談することが、普通のこと（日常）になるのではないかと思います。

<例えば…>

- 学校の保健室やこども文化センターに、相談とまではいかないけれど、話を聞いてくれる場所があるとよい。（場所の名前も重要）
- 相談をする際には「相談したことを他の人に話してもよい？」など、子どもの考えを確認する。
- 「居場所で過ごすのは日常のこと」「相談するのは日常のこと」という雰囲気を、学校や町の中に作る。

### ③ 子どもの権利を「子どもの言葉や思い」で伝えたい

<理由>

子どもの権利を伝えるために、多くの大人がかかわってくれていることを知りました。一方で、私たち子ども自身が伝える言葉や方法を考えるなど、子どもの視点で伝えることで、もっと多くの大人に伝わるのではないかと思います。

<例えば…>

- 普段から子どもと接している大人に、継続的に子どもの言葉で権利を伝える、子どもの思いで権利が伝わる機会を作る。
- 町中など、ふとした時に子どもの権利を目にする機会を作り、知ることから始めて、行動する雰囲気を生み出す。
- 大人が「子どもの権利を知っていてよかったな」という事例を紹介して広める。

## 2 令和8年度テーマ候補について、市長と子どもの意見交換

「子ども・若者の“声”募集箱」に届いた子どもの意見を参考にして、川崎市子ども会議定例会議で考えた令和8年度のカワサキ☆U18のテーマ候補について市長と意見交換をしました。

令和8年度のテーマ候補は「① 公園や遊び場をよくしよう」と「② 交流で川崎のまちを元気にしよう」の2つです。

※「主な子どもの意見」は似たような意見をまとめて掲載しています。

## ① 公園や遊び場をよくしよう

主な子どもの意見	主な理由
安全・安心な公園にしてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園にある街灯が暗くて少し怖いから。</li> <li>ベンチを増やして子どもたちをゆったり見守る人がいると安心できるから。</li> <li>公園や遊び場に花が植えられていると心が落ち着くから。</li> <li>タバコを吸う人がいてやめてほしいから。</li> </ul>
公園の遊具を充実させてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>高学年や中学生も、小さい子に気兼ねなく遊びたいから。</li> <li>順番が回ってこないから。</li> <li>遊具を楽しく使える年齢の幅を広げてほしいから。</li> <li>公園に遊ぶ道具を入れるボックスを置けば、遊具が使いなくても遊ぶことができるから。</li> </ul>
落ち着いて話せる場所がほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館や図書室のような場所だと、落ち着いて話せるから。</li> <li>こども文化センターは、休日は利用時間が短いから。</li> </ul>

### 主な市長のコメント

- 公園はみんなが利用するところ。限られたスペースなので、みんなにとって使いやすく、みんなの公園にするために考えていく必要がある。
- 安全で楽しく遊べる、ゴミが落ちていない、小さい子から高学年やそれ以上に大きい子も遊べる遊具が欲しいなど様々な意見があるが、年齢によって使い方が違うだろうから、その辺りも考えながら話合っていくことも大事。

## ② 交流で川崎のまちを元気にしよう

主な子どもの意見	主な理由
いろいろな人と交流できるようにしたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>人と人が関わることで「人とつながるって楽しい」と思える笑顔あふれるイベントを考えたいから。</li> <li>誰でも参加しやすいイベントや季節にあったイベントを考えれば、家を出ない人やめんどくさがる人も参加してくれるから。</li> <li>新しいものでなく、今までにあるものをもっと出していくと手軽に交流する機会が増えるから。(ミニたまゆりのようなイベント)</li> <li>学校、家族、AI以外にも交流がしたいから。</li> <li>花火大会やお祭りなどの頻度を上げるといい。(時期的に参加できないこともあるので、回数があると選んで行ることができるから)</li> </ul>
イベント参加のハードルを下げてほしい	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加費が有料だったり会場が駅から遠かったりするから。もっと気軽に参加できるとよい。</li> <li>フラットな関係でふらっと入れるゆるいコミュニティがあるといいから。</li> </ul>
かわさきTEKTEKを活用したイベントを考えたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>川崎市内にはあちらこちらに絵画や彫塑などの芸術作品が町中に展示されたり見られたりするようになっている。せっかくの素晴らしい作品なので、広くみんなに見て知ってほしいから(美術系のものがないから)。</li> <li>公園を紹介するようなことと併せて考えると、楽しくなるイベントができそうだから。</li> </ul>

### 主な市長のコメント

- 花火大会はお金がかかることなので、すぐに結論は言えないが、手持ち花火のような花火は全ての公園で全くできないわけではない。
- かわさきTEKTEKのアプリを使うことは、素晴らしいアイデア。



### 3 子どもたちからの提言に対する取組状況

今回のカワサキ☆U18では、令和6年度のテーマ「**子どもが考える地震のそなえ**」について、子どもたちからの提言に対する市の取組状況について、事務局から報告をしました。

#### ■令和6年度 「子どもが考える地震のそなえ」

子どもたちからの提言	市の取組状況
① 普段から防災情報に触れるきっかけがほしい	<b>広報紙「教育だよりかわさき」</b> 教育だよりかわさき134号に、カワサキU18と防災に関する情報を掲載。
② 子どもが主体的に防災について考えるきっかけがほしい	<b>「小・中学生向け防災プロジェクト」</b> 子どもたちが、いざというときに地域防災の担い手として行動できるような防災教育の取組を実施中。 ・学校の防災教育で活用する教材等の作成 ・家庭などを通じた防災の意識づくりの取組 など
③ 家族で防災について考える機会がほしい	<b>子どもが考えた地震のそなえや避難所チェックリストを地域の防災組織と共有</b> 地域のさまざまな防災に関わる人たちと、子どもの考えを共有。地域によっては、避難所開設訓練でチェックリストをテーマに意見交換を実施。
④ 子どもが過ごしやすい避難所にしてほしい	

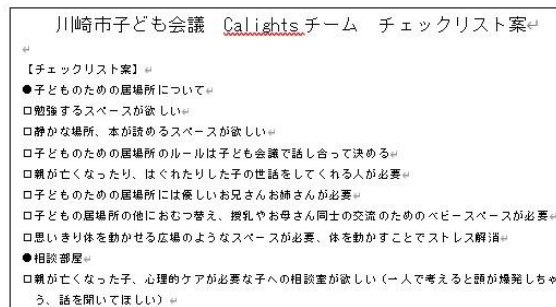
#### ○ほかにもさまざまな防災の取組を行いました。

- ・地域のお祭りやイベントに出店し、防災に関する啓発活動(携帯トイレの啓発等)を実施
- ・防災教育研究推進校にて、子ども自身が主体的に考える防災学習を実施
- ・GIGA端末の副読本「かわさきの道と川」の防災教材を見やすく改善
- ・PTAの防災イベントで川崎市子ども会議子ども委員が「子どもが考える地震のそなえ」について説明、パネルディスカッションに参加

子ども委員も取組を行いました！



<教育だよりかわさき>



<子どもが考えた避難所チェックリスト>



<PTA防災イベント>

カワサキ☆U18に参加していただいた皆さん、ありがとうございました！  
今後も川崎市子ども会議では、子どもの意見を市に届けて、より良いまちづくりに貢献していきます！

<問い合わせ> 川崎市教育委員会事務局 地域教育推進室  
TEL 044-200-3565  
メール 88chiiki@city.kawasaki.jp